

まつど未来づくり会議 会議録

分科会名：福祉分科会（第3回）

開催日時：平成21年9月25日（金）9時00分～12時10分

開催場所：中央保健福祉センター 地下会議室

出席委員：海老原 寛子（分科会長）、鎌田 啓作（副分科会長）、三木 京子、
古宮 保子、峪 二葉、百田 清美、村島 隆一、細田 香苗
石井 久雄、林 総太郎（敬称略、順不同）

欠席委員：荒 久美子、文入 加代子、（敬称略、順不同）

事務局：伊東 朱美、久富 博之（政策調整課）

【会議内容】

■分科会会長挨拶

いらっしゃらなかった方もいるので簡単に前回の話をまとめると、それぞれの立場で抱えている問題を話してもらったが、核としては交流の場をどう作れるかということになった。その点で議論を深めていければと思っている。よろしくをお願いしたい。

■事務局説明（本日のねらい・進め方の確認）

本日のねらい：「目指したい姿の宣言文の検討」

- ・ 資料の確認
- ・ 進め方：各政策が具体的にどんな状態を実現したいのか明らかにし、委員の想いを統合して共有することで、本気で目指したい姿を描く。
- ・ 話し合いのルール
 - ⇒全ての意見に価値を置く
 - ⇒人の話をよく聴く
 - ⇒想いや考えは全体で共有する
 - ⇒時間厳守
 - ⇒未来に焦点をあてる

■チェックイン：「今の正直な気持ち」や「気になっていること」などの想いを共有

■これまでの話し合いの振り返り

■「目指したい姿の宣言文」素材検討

宣言文作成に当たり、「目的」、「手段」、「成果」、「その他」の4つの要素につ

いて、宣言文の素材になりそうなキーワードを出していった。それを整理したものが別表。

■検討する政策の選定・順序の確認

検討の順序に関しては特に意見がなく、近くに模造紙が貼ってあるものから順次検討していくこととなった。以下、各政策で検討した内容の要旨は以下の通り。

政策05

- ・政策名は全体的に漠然としすぎているから、具体性をもたせたい。
 - ・多様な人が関わって子育てをする、という観点を大事にしたい。
 - ・愛情をいっぱい受けていないと自己肯定感は生まれないので、自己肯定感がある人は子どもや高齢者を虐待しない傾向がある。
 - ・働きながら子育てするか、子育てだけをするか、あるいは子育てしたくないかは選択できた方がいい。
- 働いていても幸せかどうかはその人次第だから、確かにそのとおり。
- 松戸は交通の便がいいので、働きながら子育てしやすい街になると思う。
- 働きながら子育てというと女性に焦点が当たるが、男性も子育てに関わるわけだからそちらのことも考えた方がいいのでは。今は「主夫」もいるかもしれないし。
- 働く働かないにかかわらず、社会がその人に合った方法で子育てをサポートできるようにするといいい。
- ・病児保育も重要な課題である。
 - ・選択肢は多くないといけない。お金がある人もない人も、利用するサービスは違っても、きちんと子どもを産んで育てられる社会でなければ。
 - ・「手段」の部分では、施設やハード面の充実だけでなく、精神的な部分などのソフト面を考えたい。
- 具体的な施策を出していくときりがなから、確かにある程度の抽象性は必要になるだろう。
- ・子どもを「地域ぐるみ」で育てるといいうのは、いいキーワードだと思う。
- 企業にも、会社ぐるみで子育てに協力してもらって、最終的に子どもをきちんと育てることが、会社にとってもプラスになることを認識してもらわなければいけない。ただ、市のレベルとしては働きかけが難しいが。
- ただ、社内でやる場合保育所より安くないと保育所に流れてしまうので、その部分で補助などが必要になると思う。
- スクールバスの前を降りた子どもが横切って、発車したバスにひかれて亡くなる事件があった。運転者の過失だろうが、周りで見えていた大人たちも何と

- かできなかったのかと思うと、「地域ぐるみ」ということの大切さを痛感する。
- 「地域ぐるみのネットワーク」という表現はどうか。ネットワークという言葉を入れることで、施策としての具体性が出てくる。
- 「地域ぐるみ」の中に、普通の人だけでなく専門的な人も含めて考えた方がいいのではないか。
- ・確かに子育てに関しては働くかどうか選択できた方がいいが、ここでは将来のありたい像を出すわけだから、働きながらの子育てをここで進めたいと思えば、それをもっと前面に出してもいいかと思う。
- 確かに、日本の福祉政策が高福祉高負担をめざすのであれば、負担を支えるための女性の社会進出を進めていいのでは。
- ただ、今はそこまでの合意はできていないから、働かないで子育てしている人にもメッセージはあった方がいいと思う。
- 確かに複数のメッセージがあってもいいかもしれないが、20年後に焦点を当てるなら、挑戦的・刺激的という「宣言文」の条件に当てはまることでもあろうし、尖鋭的なものでもいいかもしれない。

政策03

- ・この政策は病気や障害を持つ前の段階だから、精神面も含めた健康維持について考えた方がいい。
- 生活の目的をきちんと持つことが、健康につながる。「手段」の部分は、予防医学についての話がメインになると思う。
- そのとおりで、この政策では予防を重点において健康づくりを考えた方がいい。もっとも、健康は人によって条件や感じ方が違うから難しいが。
- まず、引きこもりのように家から出てこない人に対し、社会参加で受け皿を作った方がいいのではないか。
- 健康づくりの活動の場を作ることが大事。食べ物も重要なので、食育も重視していく必要があるだろう。
- ただ、人によっておしゃべりが好きだったり、1人で手先を動かすのが好きだったり、いろいろ違うので、いろんな活動ができるようなスペースを作っていくといいと思う。
- ・ヨガや気功をやっている高齢者に話を聞いた際、その人たちが行政の世話にもならず、誰にも迷惑かけずに生きていることに誇りを持っているのを知って驚いた。健康づくりは、ただの趣味ではないのだと思った。
 - ・特に男性などが仕事を定年になって引きこもってしまう前に、行政が定年退職者に声をかけるようなシステムがあるといい。
- これからは、行政だけでなく様々な点で地域の支え合いができるかどうか、

大きなポイントになるだろう。行政も、全てをやらずに最終的に民間が自立できるような配慮をする必要がある。

政策04

- ・ここでは、不如意な状態にある人たち全てへの施策を考えたい。
- 病気でも認知症でも、それぞれの人に合った対処法が必要になる。
- 皆がいつまでも自立した暮らしができるようにする、というのを目標にしたらどうか。高齢者や障害者だけではなく。
- 行政のサービスだけでなく、地域の支え合いで目標を達成するという視点を大事にしたい。
- もっとも、介護など専門的な技術が必要なところもあり、一般の人ではなかなか貢献できない分野もある。
- ・制度など市の政策にかかわる部分と、市民側の姿勢に関する部分の2本立てにしてはどうか。
- 限りなく行政に近い部分と、市民に近い部分と、その中間に位置するものの3つがあるとも考えられる。
- まずは市民の「自立」をキーワードとして、その上で誰もが必要となることについて政策を行うという観点が大事。つまり、市民が基本となって行政が補うということ。
- ボランティアのネットワークをつくり、各人が能力と知恵を出し合って色々なサポートができるといいのではないか。
- 松戸にはごみの分別に代表されるような地域力があるのだから、それが十分可能だし望ましいことだと思う。
- その点で難しいのは、マンションでアンケートすると周りに支援したい人はたくさんいるが、支援を受けたい人は皆無という結果になる。平均年齢は60なかばくらいなので健康でない人もかなりいるが、実際は干渉されたくない気持ちが強いと思う。
- マンションは近くて顔が見えすぎてしまうので、逆にのぞかれない心理が働くのかもしれない。ただ、そういう障害があっても乗り越えてやらなければいけないのは確か。
- 以上を踏まえると、個人の尊厳を失わないための配慮が不可欠になり、その上でのご近所ネットワークということになるのではないか。
- こういう部分は、行政だけでも市民だけでもうまくできない。まさに協働が必要なところだろう。
- ・今は核家族化の影響で、これまであった老いと死のモデルがなくなっていて、それにみな気づいているから不安がある。個人の生き方に関連して、その

問題を考えることも大事だと思う。

- どう生きたいか、どう死にたいかをそれぞれが内省する必要がある。その意味で、「生き方ノート」等を活用するのも一つの手段ではないか。
- 家族構成の多様化に伴って、死も多様化している。たとえば、子どもがいなかったり遠くにいたりして、1人で死を迎えると「孤独死」のレッテルを貼られるが、これをマイナスイメージで見るのはやめてほしいという声はかなりある。そういう死を自分で選ぶのなら、それは立派な死と言えるはず。
- 最近ある大学の医学部に「死に学」という分野ができたようだ。これも、そういうものが大事という考えが広がっていることの証ではないか。
- 本来なら宗教が大事な役割を果たすべきだと思うが、そのベースがある国とない国では異なってくる。
- これに関して、曹洞宗で「生き切る」という言葉があり、各人が生き切ることができれば、どんな死に方をしてもそれは往生だという思想が、ずっと昔からあるそうだ。私は外国の方から、日本にはそういう根っこがあるじゃないかと言われた。
- どう生きたいか、どう死にたいかというテーマは、本来すべての政策につながる非常に大きなことだと思う。今は、自分がどう生きるかの考えがないまま、何となくテレビなどに流されて生きている人が多いのではないか。
- 今回の福祉の政策については、4つの分野全てにまたがるものがあると思うので、そういうキャッチフレーズを提言に入れることもあり得る。このテーマは、まさにふさわしい。

政策06

- ・市立病院は、市外の人も多く受けて入れている点で「市立」の枠を超えてしまっている。創設時の意図がどうかかわからないが。
- 市立病院だけですべてやるのは難しいから、やはり地域医療との連携が大事になってくるのではないか。
- 「地域医療」は在宅医療のことなのか。定義が難しいと思う。また、「地域」はどこまでなのか。松戸市民の税金で他の地域の人をそこまで面倒みるべきか、という議論もある。
- やはり、国や県の補助も必要だし、患者自身の負担も応分にすべき。また、既に行われているが医療連携が重要な「手段」となると思う。
- 実は、松戸市民も他の市の病院を使っていたりしてお互いさまの部分があるので、他市との協議の際にはお金のやり取りは難しいということになった。
- 市立病院は開業医との連携の面ではかなり進んでいるが、「コンビニ診療」の言葉に代表されるように市民にも考えるべき点がある。例えば風邪なのに急

患に来て、税金払ってるのに見ないのかと言う人もいるが、自分の症状に合った病院を選ぶ意識を持ってほしいし、その醸成を図ることが必要。そうでないと、救急をもつような医療機関はもたない。

→加えて、様々な医療分野の経験を持ち、症状に応じて適切な病院に患者を振り分けられる医師も必要。

→市民がすぐできることを考えるなら、既に行われている病院ボランティア制度を充実する宣言を出してもいいかもしれない。

→以上を踏まえると、成果としては市民が病院をみんなで支えるというのがカギになってくるのではないか。

→市立病院が赤字を出すと、病院や行政の方々が責められることになるので、それもなくしていけるとよい。

■チェックアウト

■分科会会長あいさつ

かなり宣言文が形になってきたし、これが実践できたら素晴らしい松戸になると思う。今日もありがとうございました。

■ 次回の内容の確認

本日検討した「目指したい姿の宣言文」を踏まえて、それを実行するための行政と市民との役割分担や、その成果をはかるための指標について検討する。

■次回分科会の日程の確認

日時：平成21年10月16日（金）

場所：市役所新館7階 大会議室

■別紙「宣言文検討用資料」「目指したい姿の宣言文一覧」

以上

政策3 健康に暮らすことができるようにします

<p>目的 (・・・に向けて、・・・のために)</p>	<p>手段 (・・・を通して、・・・をすることで)</p>	<p>成果 (・・・を実現する、・・・を生み出す)</p>	<p>その他</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の健康向上のために ・一生を通じて(ゆりかごから墓場)、健康で過ごせるように ・病気になるないように ・子育て世代・高齢者・障害者など、誰もが健康で暮らせるために ・外出しやすいまちにするために ・農業の再生 ・一人一人が目的を持って1日を過ごす ・健康現状維持のために 	<ul style="list-style-type: none"> ・パークゴルフ場をつくり ・生活習慣としての訓練を指導することで ・負担が少ない形で社会の内の場面に参加する ・まちの中心部を歩きやすい歩道整備を増やす ・市民農園を高齢者の方が中心に行う ・身近な商店街と連携し、買い物サポートを生み出し ・様々な健康づくり活動に参加する ・外出のサポートすることで ・外出しやすい町にするために、地域などの支えあい ・食育 ・社会参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さんに楽しんでもらいます ・高齢化による障害が減る ・人との交流、政策や栽培等で達成感が持てる ・外出しやすいまちを実現する ・買い物しやすいまちを実現する ・自立しやすいまちを実現する ・介護を必要としない街にする ・地産地消の松戸 	

政策4 病気や障害、高齢などを理由に生活に支障があっても、自立した生活が送れるようにします

<p>目的 (・・・に向けて、・・・のために)</p>	<p>手段 (・・・を通して、・・・をすることで)</p>	<p>成果 (・・・を実現する、・・・を生み出す)</p>	<p>その他</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自立した市民の形成 ・安心して住める町づくりのために ・多様な人の関わりの場をつくる ・ふれあいのある社会 ・まず自分のために ・在宅でその人らしく生き切るために ・次代のために(自立した暮らしを続けるため) ・あたたかく地域が見守る ・障害、高齢者などが自立に向けて ・高齢、障害者に向けて ・犯罪防止や落ち着いた町づくりのため 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人と家族と同時に、事業所、労働者を支える ・「身守り安心制度」のネットワーク作りをし、活用することで ・地域支えあいを通して ・居場所づくり(自分が持っているスキルを生かしながら) ・巡回バスを走らせる ・異世代間の持てる能力を活用し合い ・身近な人の支援を望まない ・優しい人を育てることで ・市民の歓心を引きつけるアピール ・地域サービスを通して ・自分の持つ力(思いつきも)をちょっと貸す ・知恵と行動を提供することで(ネットワークを張る) ・住民活動の支援 ・行政への住民参加 ・モデルの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゆりかごから墓場まで」の松戸を作ります ・助け合いの地域社会を実現する ・市民の真のニーズが明らかになり、効果的な施策が立てやすい ・個別のメニューで高齢者を支えることができる ・人が集いやすくなる ・小さな社会が生み出される ・ボランティアが広がる ・自立した生活を維持する ・市民の安心を図る ・成果、生きがいを生み出す ・生活の充実を図る 	<p>(※)直接書き込み どう生きたいか！ どう老いるか！ どう死にたいか！ 自ら考えることが必要。</p>

政策5 安心して子どもを生み、健やかに育てることができるようにします

目的 (…に向けて、…のために)	手段 (…を通して、…をすることで)	成果 (…を実現する、…を生み出す)	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・安心して子どもを生むために ・安心して子育てができるように ・安心した子育て環境 ・活力を生み出す若い世代が住み続けられるために ・多様な人との関わりの中で子育てする ・虐待防止のために ・自己肯定感を育む(愛情をいっぱいもらう) ・子どもたちがあふれている街にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・市立病院の産婦人科の医師をふや ・子育てサービスのQ&Aや、わかりやすい情報提供 ・保育所の充実、学童クラブの充実 ・ライフ・ワークバランス ・医療の充実 ・子育てを地域を巻き込みたい ・気軽に相談できる機会をつくり(ネットワーク、交流の場) ・子育て支援者に対する研修を強化、推進する(ノーバデーズパーフェクト) ・専門職、経験者によるメンタル、サポート、アドバイス ・元気な高齢者の方が子育て相談を受ける ・企業保育のサポート ・地域ぐるみで支援する環境を整える 	<ul style="list-style-type: none"> ・出生率を高めます ・確実な実現を図る ・保護者を見守り、傾聴するコーディネーターを生み出す ・母、父が役割を持って子どもに充分愛情が伝えられる ・女性が子育てをしながら働きやすいように ・市内から転出を防ぐ ・働きながら子育てできる松戸を実現する 	<ul style="list-style-type: none"> ・親育て

政策6 市立病院として高度で良質な医療を提供します

目的 (・・・に向けて、・・・のために)	手段 (・・・を通して、・・・をすることで)	成果 (・・・を実現する、・・・を生み出す)	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・市立病院に誰でもいけるよう ・急に発症した市民のために ・安心して暮らしていくために ・在宅診療の充実 ・地域の医者が入っている ・優れた医療者が集まるように ・地域医療の連携に向け ・赤字をなくす 	<ul style="list-style-type: none"> ・シャトルバスを運行し ・24時間体制で医師、看護師を確保することで(総合医療医) ・働きがいのある病院にすることで ・HP内に主治医(在宅)のブースを置き、検査入院ができる ・救急医療 ・開業している医院などと役割分担し ・市民のボランティアが患者のサポート(子どもを見る、付き添う) ・貢献に見合った国・県の助成(24時間、市川や周辺市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さんの足を確保します ・私立に望めない市民のための病院が実現する ・良質な医療を提供する ・HPの将来・夢が描ける ・検査が遅れたための病死の減少、感染症早期発見(皮ふ、眼等) ・市立病院を運営する ・必要な医療が提供できる ・市立病院を市民で支える 	

目指したい姿の宣言文<一覧>

分科会	政策	目指したい姿の宣言文
豊かな人生を支える福祉社会の実現	3 健康に暮らすことができるようにする	一人一人が目的を持ち、一日を過ごすことができるために、自らの健康に関心をもち社会参加することを通して、生きがいのある暮らしを生み出す
	4 病気や障害、高齢などを理由に生活に支障があっても、自立した生活が送れるようにする	どう生きたいか、どう老いるかを考えて、個人の尊厳を保ちながら生きるために、適切な支援（専門的なサポート）を通して、誰もが不安なく自立した生活を送れるようにする
		どう生きたいか、どう老いるかを考えて、個人の尊厳を保ちながら生きるために、ご近所のネットワークを通して、誰もが不安なく自立した生活を送れるようにする
	5 安心して子どもを生み、健やかに育てることができるようにする	子どもたちがあふれている街にするために、生活スタイルにあわせて選択できるサービスや専門性をもった人も含め地域ぐるみで支援する環境を整える地域ネットワークを通して、仕事をもっている人でも働きながら仕事ができる松戸を実現する
	6 市立病院として高度で良質な医療を提供する	地域医療の連携に向けて、開業している病院など役割を分担し、必要な医療が提供できる
		地域医療の連携に向けて、市民のボランティアが患者のサポート（子どもをみる）をして、市立病院を市民が支える